



共立女子大学

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1
TEL : 03-3237-1354
http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/
家政学部、文芸学部、国際学部、看護学部
創立：1886（明治19）年 学生数：4,842名（2018年5月）

「自立と自活」の理念を次世代につなぐ 「誰もが発揮できるリーダーシップ」教育で 共同参画社会の一翼を担う女性を育てる



個性を發揮しやすい女子大

成長のカギとなるのは、自分の個性をどのくらい自然に出せるかどうか。その点で女子大は有利。



繰り返すグループワーク

マーケティングの基礎知識もない新生入生にとってビジネスプランの提案はかなり高度。それを、グループで取り組むことに意義がある。アイスブレイク、チームビルディングと手順を踏み、一回一回振り返りを行いながら、徐々にチーム力を高めていく。

クライアント企業による審査

セレクトショップFREAK'S STOREを運営するデイトナ・インターナショナルがクライアント。（左端は岩城講師）

クライアント企業や学内の関係者を前に、事業計画のプレゼンテーション。わずか3か月前に入学したばかりとは思えないような堂々とした発表ぶりだ。「他社と差別化できる理由は?」「売り上げの根拠は?」など、審査員からの厳しい質問にも、しっかりと答えを用意している。



「ビジネス学部（仮称）」の学び

マーケティング、会計、経営などと共に、リーダーシップ教育を教育の柱とするビジネス学部（仮称）を2020年4月に設置予定（構想中）。

リーダーシップ目標

自分がどのようなリーダーシップを發揮するか、毎授業ごとに行動目標を設定してグループワークを行う。

学生の成長と提案の質は比例する

クライアント賞受賞チームとクライアントの審査員。「3か月前で学生たちの成長に驚かされました」（鹿島美専務取締役）

ビジネスプランのプロジェクト学習
7月のある日、神田一ツ橋キャンパスの一室。ずらりと並んだ審査員を前に、学生たちが熱弁をふるっていた。
「御社のファッションセンスを生かした高校生の制服を事業化しましょう」「妊娠中の女性も楽しめるようなファッションを考えました」「ワゴン車の移動店舗で、若い購買層を開拓しましょう」
売り上げ200億円を達成する
1886年（明治19年）の創立以来、「女性の自立と自活」を建学の精神に、たくましく生きていく職業人としての女性を育ててきた共立女子大学。創立130周年を機に取り組む教育改革の要として、リーダーシップ教育に取り組んでいる。



川久保 清氏
共立女子大学 学長

東京大学医学部卒。東京大学医学部助教授を経て、2003年共立女子大学家政学部教授。2018年4月学長に就任。

「変化の激しい時代にあって、女性の社会進出・男女共同参画社会の実現には、まだまだ努力が必要です。本学は、そういった社会の要請にこたえるべく、高い知性・教養と技能を備え、内外に広い視野を持ち、個性を發揮して活躍できる女性、温かく思いやり深い心を持ち、品位高く人間味豊かに社会に貢献できる女性の育成に総力をあげて取り組んでまいります」
2020年4月にはリーダーシップ教育を核にしたビジネス学部（仮称）の設置を構想中。東京・神田一ツ橋。東京の真ん中のキャンパスで次世代を担う女性を育てる。

共立女子大学は創立130周年を機に、①自立と努力、②創造とキャリア、③協働とリーダーシップという3つのビジョンを掲げた。その中でも「協働とリーダーシップ」が、これからの社会を生きていくカギになると、川久保清学長は指摘する。
「次世代を担う女性を育てる新学部構想」

「提案の完成度より、学生の成長度が大切」
審査している企業担当者からは、「若者らしい発想がヒントになった」「プレゼンテーションのクオリティが高い」と、評価も高い。しかし、目指しているのは提案の完成度だけではないと、授業を担当する岩城奈津講師は言う。「ビジネスコンペはあくまでも道具。グループワークを通して学生たちのリーダーシップをいかに伸ばしていくかが主眼の授業です」
だからプロセスを重視する。一人ひとりが得意分野を生かし、率先して課題に取り組む。毎回の授業で行動目標の設定と振り返りを行う。メンバー同士が助け合い、チームとしての力を最大化する。「リーダーシップとは、チームの先頭に立つ人だけに求められるも

るための事業戦略を提案せよ」というセレクトショップからの課題に対する事業計画の提案だ。取り組んできたのは今年前期に開講された「教養講座」(リーダーシップ入門I)の受講生たち。学部を越えて集まった24名の学生たちはすべて1年生だ。3か月間、15回のグループワークを経て完成させた。